

テーマ：北方領土（実践校）

根室管内 中標津町立計根別学園

本実践のポイント（概要）

- ・北方領土への関心やふるさとに対する愛着や誇りを高めるため、総合的な学習の時間に北方領土に係る単元を位置付け、「北方少年少女塾」での学びや動画の鑑賞、Web ページ等で情報収集を行い、グループごとに北方領土問題の解決策について探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

北方領土問題を自分事として捉える活動を通して、北方領土の歴史や領土返還への課題を理解し、多面的・多角的な視点で解決策を練り合って考えたことを校内で発信することで、自分たちの考えを確かなものにするとともに、北方領土への関心をより高めることができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

「北方少年少女塾」に参加し、北方領土の歴史を学ぶことを通して、正しい認識と理解を図るとともに、「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、北方領土問題に対する課題意識を高めました。



【「北方少年少女塾」の様子】

(2) 情報の収集

語り部による講話や、アニメ動画「エトピリカ」の視聴を通して、歴史や北方領土問題について情報を収集しました。また、北方領土対策協会等のWeb ページから深く知りたいと思う情報を収集し、問題点を考えました。



【1人1台端末で交流する様子】

(3) 整理・分析

学習した内容を整理・分析し、YチャートやXチャートなどの思考ツールを一人一台端末を用いて活用し、北方領土問題の解決に向けて考えを深めました。

(4) まとめ・表現

解決策の方向性が近い児童でグループを作り、発表資料を作成しました。作成途中で、発表を見合い、改善案を出し合って発表内容を修正し、校内の児童に向けて発表しました。「できる」、「できない」に留まらず、自分たちが考えた解決策や北方領土問題への思いを発信することにより、自分たちの考えを確かなものにし、北方領土問題への理解を深めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・児童の学習意欲を高めることができるよう、北方領土に関係する施設等の利用を促進し、地域に特有な知識や情報と適切に出会わせる工夫をしました。
- ・課題について理解を深めたり、多面的・多角的な視点で考えたりすることができるよう、解決策の方向性が近い児童でグループを構成し、ロイロノートの思考ツールを活用して交流・協議をしました。

実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」の活用、「北方少年少女塾」への参加など、様々な体験を行い、個々の興味・関心に合わせて、整理・分析をして自分なりの考えや意見をもつなど、探究的に学習を進めたことにより、北方領土問題に対する関心が高まりました。
- ・総合的な学習の時間と各教科等を関連付けられるよう、教育課程を見直すことにより、児童一人一人がより主体性をもって取り組んだり、多面的・多角的に考えを深めたりすることが期待できます。